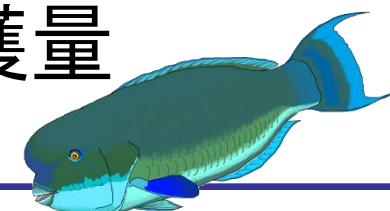




さかなのおはなし

第25回: 八重山のイノーイユ漁獲量











2016年12月1日 発行



水産海洋技術センター石垣支所では、八重山で獲れる魚の漁獲量や生産金額といった統計データを長年にわたって蓄積しています。今回は、近年の漁獲動向と、漁法別の重要魚種について紹介します。

1. 八重山で漁獲されるイノーイユ

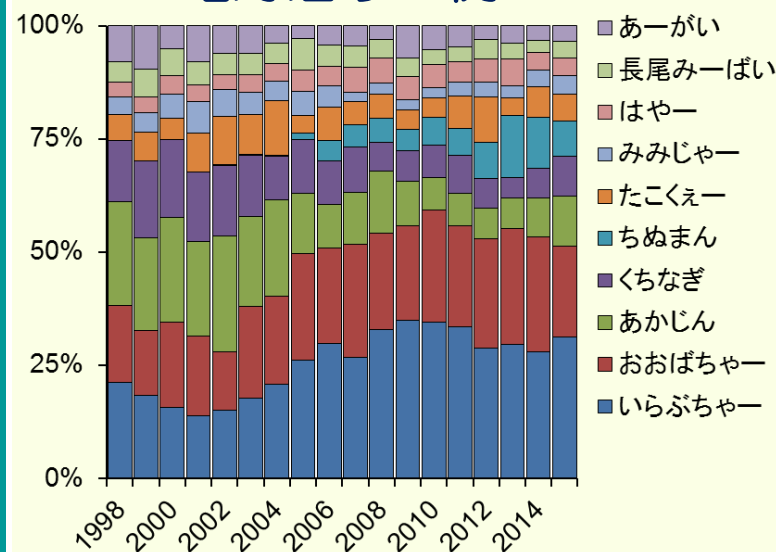
※ 背景が青色のセリ銘柄は、複数の種類を含んだ値

方言名(和名または分類群)	2000	2005	2011	2012	2013	2014	2015
 いらぶちゃー(ブダイ科)	52.6	32.8	30.8	26.0	25.4	28.0	25.5
 おおばちゃー(ナンヨウブダイ)	30.0	24.3	25.3	23.4	21.2	22.8	21.1
 あかじん(スジアラ)	24.5	15.5	9.9	8.7	8.6	12.4	14.2
 くちなぎ(イソフエフキ)	40.5	28.1	18.0	14.0	12.3	12.3	11.9
 びたろー(小型フエダイ類)	14.3	11.7	13.8	14.7	12.2	12.5	11.2
 たまん(ハマフエフキ他)	19.1	11.9	9.8	8.0	9.7	10.0	7.4
 えーぐあー(アイゴ)	30.7	15.8	10.0	7.2	6.2	5.4	7.4
 かたかし(ヒメジ科)	22.5	9.4	8.3	6.6	6.4	6.5	6.1
 あばさー(ハリセンボン科)	16.7	9.7	6.5	6.3	6.2	7.0	5.9
 たこくえー(ナミハタ)	18.2	9.4	9.2	8.3	6.7	7.1	5.6

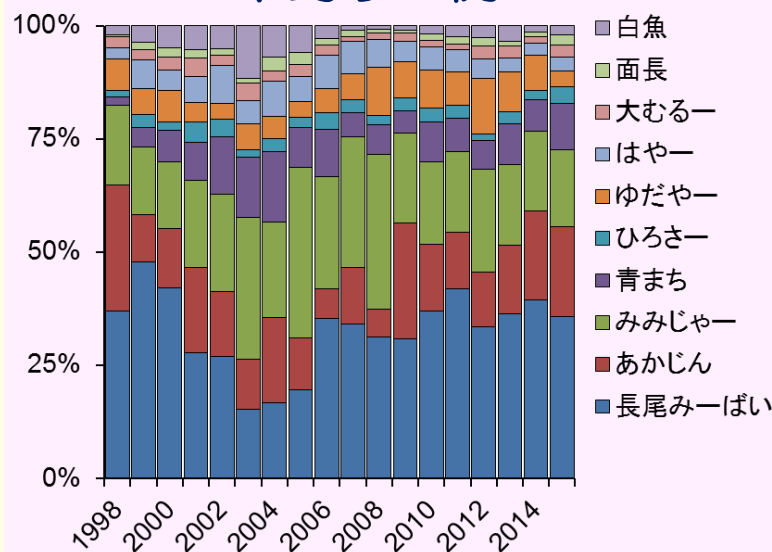
左の表は、近年の八重山産のイノーイユの漁獲量を集計したもので、参考に2000年と2005年の漁獲量を載せています。あかじんでは、この2年間漁獲量が大きく伸びています。これは、2011年以降稚魚の生き残りが良かったことや、体長制限を実施していることが関係している可能性があります。一方、たこくえーでは、漁獲量の減少が続いていますが、これには、産卵期の禁漁が関係していると考えられます。これら以外のセリ銘柄では、概ね2000年から2005年にかけて大きく減少した後、横ばいとなっています。

2. 海人にとって重要な魚種は？

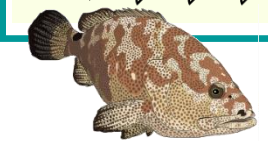
電灯潜りの例



一本釣りの例



左の図は、電灯潜りと一本釣り、それぞれある一人の海人の水揚げ金額について、上位10位のセリ銘柄割合を示したものです。人によって漁場の違いなどによる構成魚種の差はありますが、電灯潜りでは、近年「いらぶちゃー」、「おおばちゃー」の2つが水揚げ金額の半分を占め、重要な魚種となっています。また、近年「ちぬまん」や「あーがい」といった藻食性魚類の金額割合が高くなってきていることが特徴です。他方一本釣りでは、水揚げ金額の約半分を「長尾みーばい」と「あかじん」が占めているほか、みーばい類の割合が高くなっています。近年、特にみーばい類の水揚げが減少しているため、電灯潜りでは、獲る魚種を替えて補っているようですが、一本釣りでは、水揚げ金額の減少を招いているようです。



沖縄県水産海洋技術センター石垣支所 石垣市字川平828-2 電話:0980-88-2255(担当:秋田)

←バックナンバーが見られます! <http://www.pref.okinawa.jp/fish/sakana-hanashi/index.html>